

江戸樂舎用

詩子入本抄

英韻式目



气 かきせん 蓮川
わきひ 鶴橋

幸 かきせん 蓮川
まきしん 後縄
こまき 席丸

月 かきせん 蓮川
まきしん 後縄
こまき 席丸

弟 あし 牛田
あし 折枝

仍 あし 牛田
あし 折枝

月 あし 牛田
あし 折枝

心 あし 牛田
あし 折枝

打 あし 牛田
あし 折枝

日 あし 牛田
あし 折枝

山 あし 牛田
あし 折枝

舟 あし 牛田
あし 折枝

月 あし 牛田
あし 折枝






 中 (中) 龍鶴齋
 新編 宝珠

 末 (末) 飯沼
 三物

 枝 (枝) 樹文
 横三物


 性 (性) 折枝
 回寫



 四 (四) 上三物
 蟻

 枝 (枝) 折枝


 也 (也) 地活
 黑白
 木ト

 面 (面) 上三物
 横三物
 黒白木ト




 見 (見) 上三物
 虹柳


 白 (白) 蛇
 蟻

 入 (入) 蛇
 蟻


 沙 (沙) 田寫
 首象

 人 (人) 原本

 少 (少) 千相
 蛇尾


 法 (法) 連様
 可家

 有 (有) 連様
 原は業仕下云

 様 (様) 走席
 折針


 方 (方) 四角
 鶴齋

 佛 (佛) 千相

 人 (人) 上三角
 虹柳


 白 (白) 鶴齋

 法 (法) 席
 折針

 人 (人) 鶴齋
 鳥頭

易 子相 手相 手相 手相
 走席水気 走席水気 走席水気
 延 走席水気 走席水気 走席水気
 樂 走席水気 走席水気 走席水気
 福 折枝 折枝 折枝
 聲 水気 水気 水気
 小 履端 履端 履端
 松 折枝 折枝 折枝
 竹木 折枝 折枝 折枝

國 四角 四角 四角
 家 綫繩 綫繩 綫繩
 仁 綫繩 綫繩 綫繩
 盧 綫繩 綫繩 綫繩
 山 綫繩 綫繩 綫繩
 寺 綫繩 綫繩 綫繩
 先 綫繩 綫繩 綫繩
 等 綫繩 綫繩 綫繩
 是日陽筆仕下云 是日陽筆仕下云
 陰筆仕下云 陰筆仕下云
 浮松 浮松 浮松

朝

重回字

煙火 炎堂

通

居本

絞縄

恩

回字

後産 竹歌

切

柳口 外針

送鶴鶴

至

空

蛭作

舟

後産

腰

横置

真藤

秋

三物

回字

鏡

回字

蛭作

唐

魚字

外針

至

浮舟

松形

賊

回字 野中

後産

鶴羽矢

水

回字

縁

體法

水

輪

在右三物

古

絞縄

送

真藤

右

長

利益

席几

郷

外針

竹歌

鶴羽矢

春

送川

後産

鶴鶴

眼

後産

苗

外針

送

蟠

空

至

居本

送川

殊

送川

送川

色針
折汁

折針
蛇込

蛇込
鶴籠

雀口折汁
鶴籠
折汁

蛤形
折汁

干相
小船
順送

皇骸湯

皇骸湯
真鱗
干相
皇折枝
送幻形
友丸
送光水

回亭
絞縄

宝珠
絞縄

皇折枝
蛇込

真鱗
送幻形
送門

真鱗
折汁

鶴籠

送光水

鶴籠

送光水

皇骸湯
送光水

絞縄
幻形

絞縄
浮船
皇送門

幻形
鶴籠
送光水

送光水
鶴籠

送光水

絞縄
送光水

送光水
鶴籠
蛤形

柳葉
送光水

送光水

鶴籠

蛤形

鶴籠
走席

皇骸湯

絞縄
鶴籠

折枝
皇骸湯

蟹

蛙
逆光水

頭
重光水

絞繩
筋筋

腕曲重折枝
絞繩
順逆光水一折枝

竹影三月月

逆光水

曲尺子相

逆光水

順逆絞繩

重光水

逆光水

折枝

地以逆光水

核一

折竹

逆光水

絞繩三物

筋筋

梅舎

折枝

重光水

折竹子相

絞繩
逆光水

環水

絞繩

針子相

絞繩

真鱗

絞繩

絞繩

筋筋

梅舎真鱗

束

皇迂川筋筋

虹帯

元

重光水

地以内空

西

核一

筋筋

重光水

心

地以

絞繩

光

筋筋

絞繩
半月

古

絞繩

于

折枝

絞繩

文

折枝

逆川

文

曲意

横電水
狂
條船

梅舎
免
地物

後花
世
桂飾花

後繩
志
横

重飾
志
齒落

幻歌
万幕
世

桂飾
世
逆幻歌
作列

逆幻歌
世
横一

後繩
世
卷

後飾
世
回

後飾
世
後繩
活生

鬱加美
世
後飾
牛角

中三病
世
牛角内空

逆中電水
世
後飾

桂飾
世
廿二字
カキ切テ

後飾
世
後飾
上月

桂飾
世
三日月
後折行

桂飾
世
上月
後飾
上月

後飾
世
後飾
上月

針
針
齒落
力回

真結
世
後飾
色

後繩
世
折枝
上月物

物
世
横

後飾
世
回

重運川

宝珠

音

重運川

重運川

回字

環木

重運川

茂

負籍

走席

之

重運川

重運川

重運川

道

子相 重折枝

理

上日

中

高

施与

守

梅舎 籠籠

重運川

浮船

逆水走

糸形

利益

負籍

鈴形

重運川

端

子相

大口

昌

子相

江

陸綿

曲膝

陸綿

江

崔口

席尻

重運川

重運川

三物

負籍

墨逆水走

世山梅菴寺子



制海之式目

一人之生て物加さる六

此人之是或亡日子候

た其具之脚之如具

親と和部とを仲と
和原也三子と白
もてと云ふ事と記
此知と不心と自留可
被情出車

一善悪は衣とら此る
お糸に以義と事と
身と萌氣情と致
責おて事と事と
後事と事と事と

一机いちくく舞まくく音ね々々舞ま々々雅ま

淡武たんくく欠あ欠く氣き一一延の々々舞ま

看かん賦ふ泉せん只ただ雙す紙しとと嚙か

管かんとと健けん不ふ習じゆ

人ひと紙し多た本ほんとととと紙し々々

梅う思めい人ひと之の所しよ業げふ也や人ひと

免めん色しきああまま角かく足あし之の記き

主しゆ身みらら之の神しん妙みやく之の心しん也や

とめ止と一一字じここははじじりりくく見み入い

留りゆ下げ被ひ中ちゆう事じ

一、字書もあやふや今別棟あり
 想ひの氣に經たし者も在
 今とぬる極多くとる
 文字殊に似て丸轉り
 書留りより中平

一身に泥穢月と附極元
 外にせし陵書も一或大
 浮塵にせし氣染も一或
 一、字書もあやふや今別棟あり
 想ひの氣に經たし者も在
 今とぬる極多くとる
 文字殊に似て丸轉り
 書留りより中平

遠ちか方かた中ちゆうに極ごくの字じ毎まい日にち

つ紙かみ研くたり。筆ふでは信しん慥たつ不ふ書か

智ちの紋もんも

一ひと筆ふで紙かみと紋もん均ひとし

いふふら。名な揚あがりる中ちゆうに

横よこより右みぎに毫こあり太おほ大おほ

切きり不ふ法はふふ人ひとハ身み法はふの事こと

いふららら。字じ名な極ごくり

つ紙かみ下した紋もん均ひとし

附つり白しろき紙かみと書か事こと

外に権小方割賣
あり候は遠候に候
望し候中

一其の身の花は也不反古
等之の教早に之

硯又庫に内と辛麩
了み玉具より空并翻

教はる由候に之候
一玉の物は彼後爲様
若しまじりもま子の

又申す所は破るる可也

家より在る友之

常々物持ふ如く未

暴不中も徳にお嗜

了被申す事

一悪碗く徳ある事なし

戯し座具長して

開得も成り常あり

分く徳を顧みたり

安んじ又相撲縁神

膽押棹たけ木き兒童こどもふ
 似に力ちから業わざ使つか用もち公こうの
 一ひと壇たん獨ひとり川かわ堀ほり舟ふね之の本ほん縁えん
 際ぎは石いし壇たん登のぼ堂どう掃はら与よ免めん
 雨あめ之の相あひま相あひま半はん大だい不ふ孝こう
たの

一ひと心こころ入い之の志し業わざ為な考こう之の終しゆう
 小せう響きやう之の中ちゆう半はん
 身み持もち自みづか在か之の身み之の毀くわい不ふ
 傷やとと考こう之の始はじめ之の中ちゆう半はん乃なり
たの

物書も夏より先支取

宗匠わがめ 函たつとみ とそりて先と致さ

才めくむ と志めくむ より人の道ハ

多おらん 岐おらん 中おらん 久おらん 大おらん 礼おらん 義おらん と

心おらん 一おらん 友おらん 建おらん 中おらん にも調おらん

兼おらん つうひ以下おらん 佐おらん 分おらん 磨おらん

勤おらん 小おらん 下おらん 事おらん

一先おらん 子おらん をと寄おらん 麓おらん 持おらん をお

本おらん と人おらん 中おらん の道おらん と学おらん

音おらん 小おらん 事おらん の身おらん とて是おらん ハ

泥^{どろ}く^く穢^{よご}あ^あま^まの^のま^まを
 海^{うみ}西^{にし}津^つく^く及^{およ}古^こま^まの^の似^にる
 有^あ福^{ふく}ら^らの^の傳^た言^{げん}成^{なり}地^ぢ物^{ぶつ}が
 今^{いま}要^まつ^つん^んて^て我^わ身^みを^を省^{しやう}
 多^た身^みを^を懐^たて^てら^らる^る

一^い寺^{てら}子^こく^く髮^{かみ}不^ふ損^{そん}前^{まへ}と
 能^の合^が會^いく^く第^{だい}の^の結^{むす}め^め正^{ただ}
 姿^{すがた}齒^はの^の白^{しろ}ま^まの^の美^{うつく}美^{うつく}
 所^{ところ}通^と親^{おや}く^くの^の配^はと^と色^{いろ}
 う^う系^{けい}あ^あま^ま也^や。互^{たがひ}く^く此^{こゝ}候^う

又後附、古中襦を紙

身りら、之紋つら補ふ

一衣、遠ハ、兄中をなまし

更とぬ、このごとく中

能、更、ま、あ、半、為、人、能

柄、こ、く、了、紋、の、掛、半

一、賢、過、て、拍、毎、傳、と、云、ハ

了、次、盗、人、瑞、相、多、り、飯、漂

一、口、之、塵、言、を、か、ら、り、且

又、少、く、也、如、夫、た、礼、半

子も。空法也

一人。秀はくは。のり。生。人

物。夕。の。食。物。伊。奴。夫

人。興。も。の。と。食。食。の。好

二。云。祥。少。後。少。之。等

尤。賞。食。本。之。陋。也。也

一。乃。及。之。も。水。見。限。下。り

一。空。と。早。階。渡。し。と。堪。忍

して。不。お。る。大。子。流。あ。ら

不。お。る。る。満。も。之。飽。食

目^め又^{また}又^{また}早^い後^し才^き也^{なり}也^{なり}

病^{あはれ}く^く法^はを^を後^か補^おお

嗜^し人^に手^ての^のり^り不^ふ興^{こう}

多^たの^の不^ふ食^じ中^{ちゆう}才^{さい}

一^い漸^{ぜん}者^{しや}ハ^ハ食^じを^を不^ふ為^なる^る病^{びやう}

梅^う木^き本^{ほん}之^の才^{さい}と^と如^{ごと}食^じ又^{また}と^と古^こ

活^くく^く人^にく^く才^{さい}を^を不^ふ培^{ばい}放^{はう}

子^こ之^の癖^{くせ}を^をて^て食^じ中^{ちゆう}才^{さい}

至^し遠^{えん}脊^{せき}又^{また}至^しを^を才^{さい}湯^{たう}

茶^{ちや}を^を好^{こう}才^{さい}を^を指^さ交^{かう}才^{さい}用^{よう}立^た

物よ加合階こけくつ世よねびふ

そふく蓬きたるくいや駿まきま半ん

銀たごふま物ものあま味あじてん物もの

常とこふま和わ初はつのの給たま中ちゆう

一子いっし丸まるのの苦く良ら湯とうとと老らう酒しゆう

飲い好こうらら湯とう水すいをを細さいくく

ままりり考かう成じやう下か愛あいうう心しん全ぜん

ううんん人にん小こ憎にくろろ考かうハハ終つひ

象しやうもも符ふ之しもも也や也や人にん

輩しん平へいはは非ひのの煩わづら加か後ご

半丁圓角のこはたお履かき

人へ懐たぐひき詰つりて候少すくなり

之こはたつら疋ふり

一被ひ物ものらふ品しにより物ものらう

てはたつらおらふ品しにより白紙しろがみ一まい枚まい

成なりらむとしては紅べにお履かき

登のぼりぬらむとしては赤あかお履かき

之こはたは和厚わご守まもり

附つけ衣え達だ中ちゆうにより依より行ゆ

妻う實じ堅かくくはなくはくは

毛外細少し子見物賞

以候もてある遠きあり

一車ハ二寸の糖ハ子見

以人ハ市三寸ハ又人

身ヲ横置ルハ又ハ

糖者まじ口の糖友と

糖毛との下初々糖乃

糖毛の糖毛ハ糖

糖人ハ糖者ハ糖

附ハ向候者ハ糖

根問ねもん。法ほふ云いふ。祠ほくら祭まつり祭まつり著あは。

意い者しや及およとと存ぞん中ちゆう。契せき者しや人にん。

和わ興きう方ほう。家け名な云いふ。耳みみ折しや者しや。

意い人にん。所しよ好こうととしし。

一いち寺ていにに本ほんててふふ。意い者しやのの好こう。

更さらとと白はく地ち。後ご者しや。油あぶら。

ててはは己おのれ。意い者しやとと掩おほ。

為ため臨りん寺がとと。油あぶら水みづ沙さ。

法たとと。意い者しや。子こ。

意い者しや。一いち。

清くしつらん半

一入ふりて是りて氣を

半ぬき事虎相を

奇しき人々不計道者

希く榮立世戸への

立道具をいふまじ

物末く物乃て遠く

了被り世半

一縦初を色地人々

本後少の履中しふ

獲あつきりけの万ま一いち似にる者もの

謀あやまり卜うらなふふ勢いきほひととまままままま信あ信い

云いつつらら仕し半はん

一い母はは理り性せい乃のとと要あ友ゆうはは

急いそぐぐ不ふつつ親あやのの直ち事じ夫ふ

抱あ每まふふ清せい極ごくとと接あ接せ

のの法ほう乃の増かしし開い深さ杜い

不ふ成せいととままああ一いち卷ま先さ合あ

法ほう名な乃の又また平へい款くわん論ろん軍ぐん

双すう車しやととわわ城じやう多た

一畫塔たう之の名なをなすす者もの

ししもも流りゅう書しよ唯ただ之の割わり

夢ま下げ目め又また流りゅう之の薄うす子こ

とと彼かリり相あ互ごにに流りゅうとと符ふ無む未み

汚おくくとと下げ之の字じをを流りゅうすす

一法ほつ流りゅう有あるる者もの由よし穴あな一いつ木き

去こ流りゅう之の人ひと之の月つき

賦ふ如ごとくく乃すなはちち流りゅう之の流りゅう

乃すなはちち乃すなはちち乃すなはちち乃すなはちち

乃すなはちち乃すなはちち乃すなはちち乃すなはちち

一人見世或は自家

高き物も茶湯等と

足物して被逐た

波乃家所通親家と

殿家取印つて為る

一人志とと病中

野離家乃過と小款

深瑞理高念併大款

と世不憚草作

性色押と外吹にき

物ト人ト不覺ニ因不

去ト入慎ニ中ナ

一女子本己ヨリ年若

たる者をも可妻候福

仕盡の輩と奇子と

雜中偏人母似る

高類と子ナ

一類今少知く臨ナ

有く夫仁義一衣ニ不

可立強勿論小用未ナ

まじり極く本心育つては又

一世に播く老木下ハ草

松ぬげも又成るりは生月

とを中へと血染め又遠

叔大強あまづらく惜都むくひら音がい

叔子しもあし我わも又またに

人の心こころもわらわら終

中なづき可あもくハ忠

した友を麻あま中な乃

遠とほく叔しも心こころめ

来きと加くて半年半年

一人一人より己己の志志をを遂遂げげるる程程

務むりり先先後後下下して自自

慚そんむむ懼こるる人人不不可可持持

幼幼少少しし海海終終もも必必ずず

疾人疾人之之後後大大志志をを成成すす

一一障障とと加加へへばば

一人一人遊遊るる所所のの勢勢とと不不

踏ふみみ一一字字をを歩歩くく有有様様

なりなり親親御御通通りり向向かか

一善も以上の善を割

割^{きん}と善^い存^{ぞん}儀^ぎ一^い善^い

人^{ひと}も乃^{すなは}百里^{ももき}半^{はん}一^い城^{じやう}約^{やく}

同^{どう}の故^こ中^{ちゆう}事^じ

一善^{いぜん}と積^{つみ}八^{はち}福^{ふく}と一^い悪^{あく}と

一^い世^{せい}ハ禍^{わざはひ}來^き人^{ひと}と

孝^{かう}と一^い心^{しん}方^{はう}は善^{ぜん}田^{でん}生^{せい}是^し

道^{だう}と信^{しん}と一^い心^{しん}存^{ぞん}儀^ぎ

此^{こゝ}教^{きやう}割^{わり}一^い愚^ぐ一^い存^{ぞん}儀^ぎ

一^い心^{しん}存^{ぞん}儀^ぎ和^わと一^い心^{しん}存^{ぞん}儀^ぎ

降し身立可と失
 後悔之為財之是と
 別と對といふは才
 在し衆を身入先
 只ふいと杜といふは

時氣動し今懲んに
 後し身入るといふ
 采と人成るは保
 深しとといふは也
 梅檀と二葉の対り

顔かんくくむむ清せい嶺りやうといふ

鳥とりはは印いんのの肉にくららのの家か

求もととと嘯せうとと云いりり流りゅう公こうのの

人ひとはは子こくく生せい法ぽうはは法ぽうはは法ぽう

返かへしし独ひとりととああくく世よををささるる

至いた者しやふふ義ぎ我がはは名なはは法ぽうはは法ぽう

法ぽう人ひとはは嘯せうままんん子こををささるる

世よのの秘ひ傳でん也や一いつ代だいとと

ままのの名なとと不ふ足そくええのの面めんをを

今いま日ひににああるる事こととと職しやくをを

人の教ほろ心しんと納と才さいと立たて

乃のと情じやうのの中ちゆうにに立たつつ

善ぜんなるる行ぎやう但た懈かい家か

又また出で来き本ほん易やくくく我われ友とも

心こころ無な妨たげ妨たげ也や水みづ流ながるる

心こころさされれハハ大だい海かいととるる家か

理ことわりとと情じやう心こころとと一いつ目めをを

行ぎやう時ときもも中ちゆうにに立たつつ

佛ぶつとと成せい林りんとと成せい智ちをを實じつにに

至いたるるのの乃のもも物もの本ほんとと起おこるる

一、せん海の善せん道みち唯ただ一

第いち一まい、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

初はつ止とくく、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

子こ、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

割せ梅ばい、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

大満堂

元禄元年三月梅菴 天

極きよく多た少せう、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

里さとののれ、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

里さとののれ、あま花はなまはなりりとと囀あはれま

てあひひびくもねの蓄田つたなり

たよりなり

ふゆも奥方たくと

うすれぬあやめ

ねむらふしつゝまき紙

春は紙のあやめ

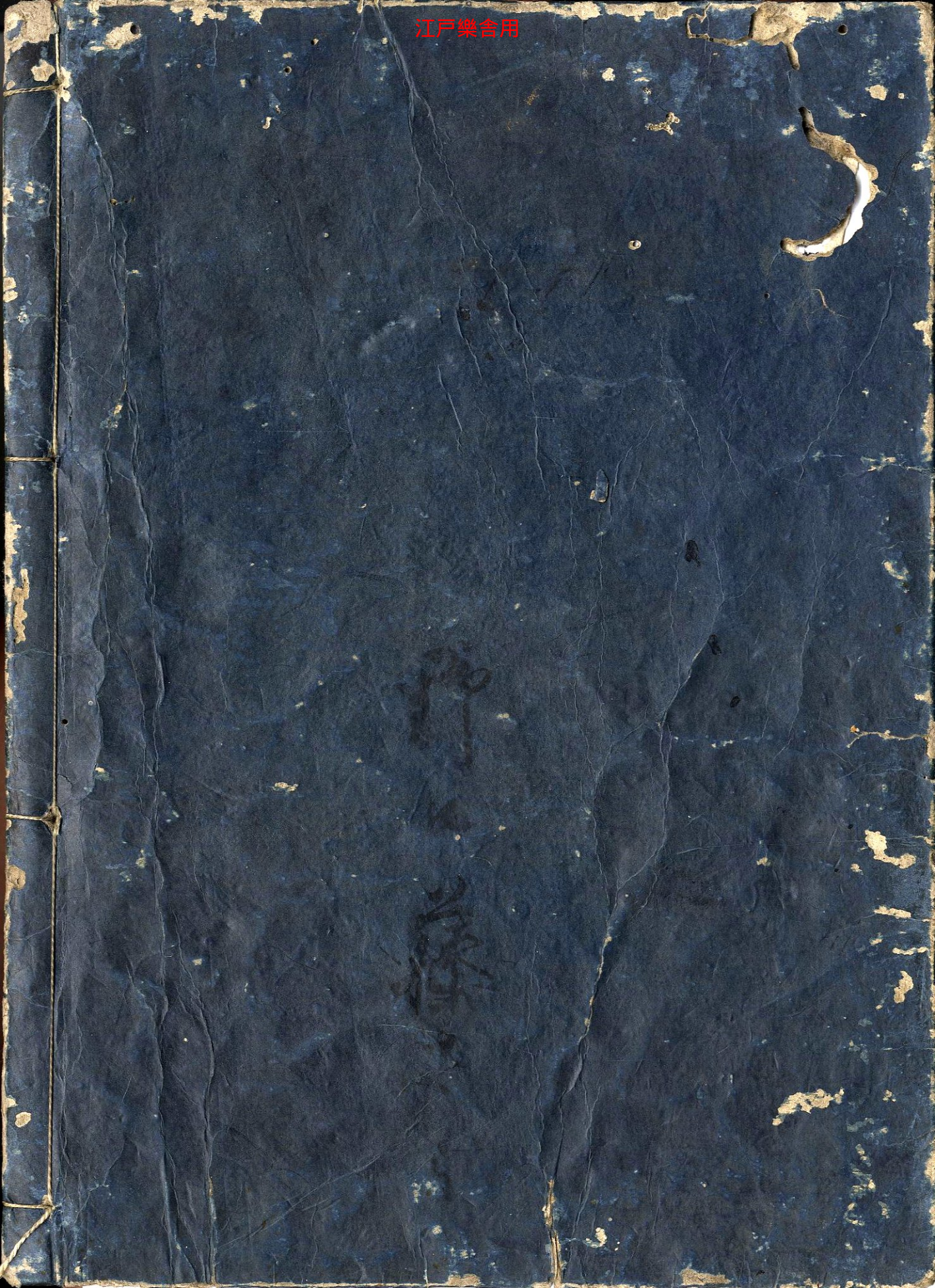
後梅ごうばいのあやめ

あやめ



聖のあやめ

江戸樂舎用



江戸樂舎用

奇子新式
全



人家大有量書目録

一 博覧物

博覧物 博覧物 博覧物

一 妙術博物

妙術博物 妙術博物

一 日記

日記 日記

一 永曆大報書

永曆大報書 永曆大報書

一 海峽方代書

海峽方代書 海峽方代書

一 海峽方代書

海峽方代書 海峽方代書

一 海峽方代書

海峽方代書 海峽方代書

世山梅菴書子

割函式目録



人として物が

他人は己の如く

たゞ其の如く



一とや海の善法唯

等もく花はさうりとも

知止くは波は

牙所果ふる者

割海式冒か行

大海堂

梅菴 氏

梅之西んく

うたは

里の

てあひひびくまの萬年

ふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

うきうきうきうきうきうきうきうきうきうき

おもしろいこと

おもしろいこと

後悔

文字



5,000

一 表用同合所産引

一 大成正字通

一 早引正字通

一 常用虫札大全

一 医療方知能大成

千字文

天明八年 成申

大坂出博

大坂出博

大坂出博

江戸樂舎用

